

「防犯パトロール隊の危機」

宮城県仙台二華中学校 2年

井崎 英里さん

「急告！パトロール隊からのお知らせ」

年度初めの4月、連絡書類でファイルいっぱいとなった町内会の回覧板から、この一枚の紙が、ひらりと私の足元に落ちました。何気なく拾ったものの、その内容に、私の目は釘付けになりました。

私の住む町内では、毎月第2、第4日曜日の夜8時から、防犯・防火パトロールを行っていました。私も十年前、この町に引っ越して来てからずっと、当番の日には必ず、母と一緒に参加を続けて来た活動です。つい2ヶ月前、2月の第2日曜日にも、町内の方々とパトロールを行ったばかりです。

パトロール隊に、何があったのでしょうか。

急告と書かれたお知らせには、これまで隊の先導役を務めていたお二人の方々が、体調不良のために平成28年度をもち、3月で引退されたこと。そのお二人の後継者が見つからず、平成29年度の夜間パトロールが活動不可能となり、後継者が見つかるまでの間、活動を休止することが記されていました。

先導役のお二人とは、一年に一度の周期で、当番が巡ってくる我が家とは違い、活動日には必ず参加をし、パトロール隊を先導していた方々です。私が初めてパトロール隊に参加をした時から、先月の当番を行った日まで、休んだ日はありません。2月のパトロールでも、いつものように隊員を先導していました。

「毎回参加してもいいのよ。」

と、拍子木を手渡してくださった姿を思い出し、お二人のことがとても心配になりました。

一年に一度、パトロール隊の当番を知らせる袋が玄関に届きます。その時の母の様子から察するに、夜間パトロール隊の当番とは、あまり歓迎されないもの、心の負担となる存在のようです。何も言いませんが、当日の夕方まで空を見上げる母の姿は、雨か雪を期待しているようにも見えます。そんなパトロールを何年にも渡り、毎回休まず続けてくださったお二人に、心から感謝したいと思います。

私は、もし自分に、先導役ができるのなら、このパトロールを存続できるのだろうかと考えました。しかし、中学生という年齢で、そんな大役を任されるわけがありません。大人の決めた結果に従うしかない現実が、とても悲しく悔しいです。

後継者問題は、町のパトロール隊に限らず、これから先、様々な場面で直面する問題ではないでしょうか。そんな時、私たち中学生にできることは、本当はないのでしょうか。

町内のみなさんと巡視しながら歩いた夜道。上手に叩けるようになった拍子木や、声に合わせて鳴らしたベルの音を、私は忘れません。

パトロール隊がなくなった今、これまで以上に防火・防犯対策を行い、もう一度各自が、防火・防犯について、再確認する必要があるのではないのでしょうか。いつの日か、私の町に再び「火の用心」の声が聞こえる日まで。